DANCING CLASSROOMS™ TRANSFORMING LIVES-ONE STEP AT A TIME

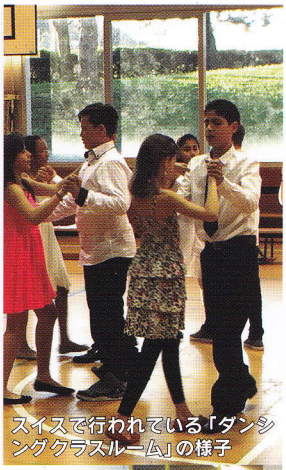
世界に広がる「社交ダンスで心を育てる教育プログラム」「ダンシングクラスルーム」が日本上陸！

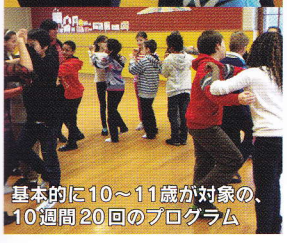
テイラー佳子（ケイコ）さん（コーディネーター）／ヨシ矢野さん（ディレクター）

『ステップ！ステップ！ステップ！』を観た方は？　アントニオ・バンデラス主演の**『レッスン！』**は？　どちらもNY（ニューヨーク）を舞台にした社交ダンス映画。「こんなことが日本でもできたらいいのに」と思ったダンス好きは多いはず。

『ステップ！ステップ！ステップ！』が米国で公開されたのが2005年。10年が経ち、この社交ダンスを使った教育プログラム**「ダンシングクラスルーム」**（以下、DC）は、全米に、また世界中に広がりを見せている。

プログラム創始者で全英ショーダンスチャンピオンだったピエール・デュレインもまた世界中で普及活動を続けている。イスラエルとパレスチナの子どもたちにDCを行った模様も、映画『ダンシング・イン・ジャファ』（2012年公開・日本未公開）になっている。


スイスで行われている「ダンシングクラスルーム」の様子


基本的に10～11歳が対象の、10週間20回のプログラム

このDCを、初めて米国以外で普及させたのがジュネーブ在住のテイラー佳子（ケイコ）さん。彼女の尽力により、2009年からスイスの3州で自治体の予算を得て、公立の小学校約30校でDCを行っている。

「社交ダンスを教えることそのものが目的ではなく、ダンスはツールです。ピエールは自分を育ててくれたダンスへの恩返しというつもりでこのDCを作りました。アントニオ・バンデラスが映画『レッスン！』でピエールをモデルに演じた通り、ダンスでも日常でもとにかく紳士でエレガント。本人のダンスは魔法のようです。このエレガントさは触れあって踊る社交ダンスではなによりも大事な相手への気遣いから来ています。多様な人種がいるNYでは、異文化を持った相手とも付き合っていく必要があります。ダンスは人間にとって根源的なコミュニケーション手段の1つで、分かり合うためのツールとして優れています。DCは子どもの自信と思いやりの気持ちを育成するプログラムなのです」（テイラーさん）

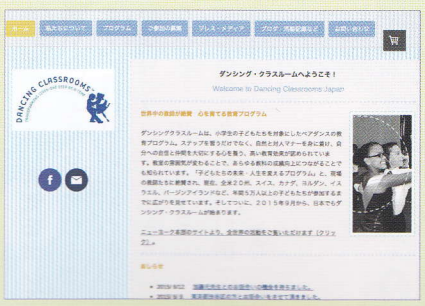
だが、DCの普及は一朝一夕ではならない。学校、自治体、親などの理解と多くの賛同者の協力があって初めて成し遂げられた。

「ピエールですら、NYでの普及には7年もの歳月がかかっています。最初はどこの学校でも門前払いだったそうです。しかし、プログラムを取り入れ、ダンスを踊る際のマナー、取り組む姿勢を学ぶことで、相手に対する尊敬の気持ちが身につきます。それが自然とクラスの雰囲気まで変え、学業成績の向上にもつながっていることが証明されています。こうした実績により、現在、世界の24都市で200名以上の認定講師（ティーチングアーティスト）が活動するまでになりました」（テイラーさん）

その彼女が、今度は日本でのDC設立をサポートするという。認定講師第一号は、ピエール・デュレインの直弟子で、長く日本でのアメリカンスタイル社交ダンスの普及に尽力しているヨシ矢野さん。

「DCのダンスはアメリカンスタイルのソシアルダンスです。メレンゲ、フォックストロット、ルンバ、タンゴ、スウィング、ワルツ、ポルカを教えていますが、講師に必要なのはダンスの技術よりも情熱と人間力。海外で活躍する認定講師のバックボーンはダンス教師より役者や音楽家が多いのです」（ヨシ矢野さん）

テイラーさんとヨシ矢野さんは、今年9月からの本格始動を目指し、鋭意準備中である。



「ダンシング・クラスルーム・ジャパン」についての詳細、問い合わせなどは、公式サイトを参照のこと

http://dancingclassroomsjp.jimdo.com

構成／吉川有機(Y2J)